



## ニューサークルだより

### 酷暑の中？

「幕営と山での生活実習」に参加して

一王山支部 中村剛二・順子

8月10日、本来なら東灘区岡本の十文字山麓「兵庫県山岳連盟の森」で行われるはずであった「幕営と山での生活実習」は、猛暑日続きの為、テント泊で熱中症会員が出たら大変！！との企画責任者の判断で、急遽、神戸登山研修所の大会議室にて行うことになった。参加者は男性8名女性4名合計12名。吉野会長の指導でテント設営の実習を行った。



テントの部品から説明を受ける参加者

準備されたテントはダンロップテント・V404型6人用1張、同DT-700S型6人用1張、同3人用2張、及びRIPEN1人用1張と、モンベル・ツェルト1張。単独行から数名のパーティ山行まで対応できるテント類を見ることが出来た。



テントの種類によって組み立ては異なる

まずは母体となる吊り天上型本シートを敷き詰め、本体の骨組みとなるポールの組み立てを行う。ポールはバラバラにならないようにゴムで繋がれており、折りたたみが可能。オートキャンプなどで使用するテントとは違って、短時間で張ることの出来る山用は、フライを含め、コンパクトで結構快適な空間も確保されるように設計されている。今回は準備されていなかったが、冬季は寒さや積雪にも耐えることが出来るように、冬張り用フライもあるとのこと。



手前2張りは6人用。後ろは3人用と1人用

3人用テント1張りを残し全てを組み立てるとそこはもう北アルプスのテント場模様！！・・・テントの中でシュラフを出したり、ザックを枕にして横になったり、それぞれが一時の住み家体験を楽しんだ。

幕営で一番大切なことは撤収作業の機敏さと丁寧さである。より丁寧に、しかもコンパクトに効率よく撤収できるかが次の行動をよりよくするに欠かせない。皆熱心に集中する・・・



まずは母体テントを丁寧に折りたたむ作業



フライは母体に包み込んで・・・空気を抜いて・・・

今回感じたことは、山行中に幕営をしている登山者を見て羨ましくも思ったりしたが、設営から撤収まで、結構シンドイな～！と思ったこと。加えて、このテント、誰が担いで山へ登るの？・・・  
やっぱり小屋泊まりは楽でえ～な～・・・！！  
でした。



幕営生活体験は豚しゃぶで！！お疲れ様でした！

